

皮膚科学講座

教授：中川 秀己	アトピー性皮膚炎, 乾癬, 色素異常症
教授：石地 尚興	皮膚リンパ腫, ヒト乳頭腫ウイルス感染症, 皮膚アレルギー学
教授：朝比奈昭彦	乾癬, アトピー性皮膚炎
教授：梅澤 慶紀	乾癬
准教授：太田 有史	神経線腫瘍
准教授：延山 嘉真	皮膚悪性腫瘍
講師：伊藤 寿啓	乾癬, 光線療法
講師：築場 広一	膠原病, 乾癬
講師：伊藤 宗成	皮膚悪性腫瘍, 再生医学
講師：石氏 陽三	アトピー性皮膚炎, レーザー治療
講師：勝田 倫江	アトピー性皮膚炎, 乾癬
講師：尾上 智彦	ヒト乳頭腫ウイルス感染症

教育・研究概要

I. 乾癬

乾癬では、ステロイドと活性型ビタミンD₃製剤を用いた外用療法は治療の基本となっている。内服療法としてシクロスポリンMEPC, エトレチネートがあり、さらに全身照射型のNarrow-band UVB, 308nm excimer lampを設置し、積極的に光線療法を行っている。また、生物学的製剤では、抗TNF α 製剤としてインフリキシマブ, アダリムマブ, 抗IL-12/23p40製剤としてウステクヌマブ, 抗IL-17A製剤としてセクキヌマブ, イキセキズマブ, 抗IL-17受容体製剤としてプロダグマブが治療適応となり、難治性重症乾癬患者の治療の選択肢がさらに増えた。治療法の選択には疾患の重症度に加え、患者のQOLの障害度、治療満足度を考慮することが重要である。そのためにQOL評価尺度であるPsoriasis Disability Indexの日本語版を応用し、患者QOLの向上に役立てている。また、メタボリック症候群の精査も行い、高血圧、高脂血症の治療も合わせて行っている。さらに乾癬の重症度と労働生産性に関する疫学調査も行っている。また、乾癬性関節炎に関しては、積極的にDual Energy CTなどの画像診断を行うことにより早期診断を行い、早期治療が可能となった。

当施設では、乾癬患者数が多いことから、新薬の臨床試験を行う機会も多く、生物学的製剤（複数）や新規外用薬の試験を適宜実施している。

II. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の発症にはバリア機能異常の側面、アレルギー・免疫異常の側面、心理社会的側面など複数の要因が関与している。当科ではバリア機能異常に対する対応として保湿剤の使用を勧めている。また、アレルギー的側面については、血液検査を中心にアレルゲンの同定を行っている。心理社会的側面については、アトピー性皮膚炎患者のQOLは種々の程度に障害されていることが明らかになっている。治療はEBMに則った外用・内服療法といった標準的治療を基本に、重症患者にはシクロスポリンMEPC内服療法などを行っている。また、新しい治療法としてホスホジエステラーゼ4阻害外用薬やIL-31をターゲットとした抗体治療の臨床試験を実施した。

III. 皮膚悪性腫瘍

当科では皮膚悪性腫瘍、軟部悪性腫瘍全般を扱っている。内訳は悪性黒色腫、有棘細胞癌、乳房外パジェット病、基底細胞癌、皮膚悪性リンパ腫、隆起性皮膚線維肉腫、悪性末梢神経鞘腫瘍(MPNST)など多彩にわたっており、国内でも屈指の症例数がある。治療方針は皮膚悪性腫瘍ガイドライン、皮膚悪性腫瘍取り扱い規約に基づき、治療方針を決めている。

色素性病変症例では全例でダーモスコピー検査を実施している。また、悪性黒色腫を中心にRI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検も積極的に行っている。皮膚悪性腫瘍は積極的に手術治療を行っている。進行期症例に対して、免疫療法・分子標的療法・化学療法・放射線療法などを施行している。またがん患者の精神的なケアについて配慮し、がん性疼痛に対しても積極的な治療により、疼痛をほぼ感じることなく日常生活が過ごせるよう緩和ケアを病院の緩和ケアチームと協力して行っている。

IV. 神経線維腫症

神経線維腫症外来は本邦で最も患者が多い外来であり、全国より患者が紹介されるため診断のみでなく長期の観察に加え、患者のQOL向上を目指して積極的に皮膚腫瘍の切除を外来、入院で行っている。神経線維腫症1型(レックリングハウゼン氏病)に合併したMPNSTはlifetime riskが10%に達すると言われ極めて予後不良である。原因不明のためMPNSTのがん精巢抗原遺伝子のメチル化状態を検索し、がん精巢抗原遺伝子が脱メチル化すること、および、CpGアイランド低メチル化形質が存在す

ることを明らかにしている。今後、そのメチル化形質がMPNSTの臨床病態に及ぼす影響について探究する必要がある。

V. ヘルペスウイルス感染症

1. 帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛 (PHN)・ヘルペス外来

単純ヘルペスは、性器ヘルペスおよび難治性口唇ヘルペス、顔面ヘルペス患者などの治療を行っている。ウイルス特異的抗原に対する蛍光抗体法や、イムノクロマト法を用いた簡易キットで、迅速な診断を行っている。再発を繰り返す再発型性器ヘルペス患者にはバラシクロビルを用いた再発抑制療法を中心にしている。

帯状疱疹は、皮疹が出現初期からPHNを発症した患者を含め総括的に治療を行っている。急性期痛、PHNを伴う患者ではステロイド、三環系抗うつ薬、オピオイド、プレガバリンを含めた抗癲癇薬、トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠、トラマドールなどを積極的に用い徐痛を図っている。

VI. ヒト乳頭腫ウイルス感染症

尋常性疣贅では、一般的な液体窒素凍結療法に加え、難治例では活性型ビタミンD₃軟膏密封療法、50%サリチル酸絆創膏貼付療法、グルタルアルデヒド塗布療法、モノクロル酢酸塗布などを組み合わせ、治療効果をあげている。さらに難治なものに対してはSADBEによる接触免疫療法、くりぬき法による外科的切除や炭酸ガスレーザーによる蒸散術を施行している。また、尖圭コンジローマに対しては、イミキモドクリーム外用や液体窒素凍結療法、電気メスによる焼灼や炭酸ガスレーザーによる蒸散に加え、トリクロロ酢酸外用療法やポドフィリン外用療法を施行している。ハイリスクヒト乳頭腫ウイルス感染が疑われる症例ではPCR法やin situ hybridization法を用いたヒト乳頭腫ウイルスの型判定やP16免疫染色による検討も行っている。

VII. パッチテスト

各種の薬疹、接触皮膚炎、口腔粘膜の扁平苔癬などの原因薬剤、物質のパッチテストを積極的に施行している。

VIII. レーザー治療

Qスイッチルビーレーザー治療では、太田母斑、老人性色素斑の成績が良く、老人性色素斑ではほとんど1回の照射で改善した。他方、データ解析を行

い、扁平母斑及び神経線維腫症のカフェオレ斑の有効率が低いことなどを明らかにした。パルス色素レーザー治療では、単純性血管腫や莓状血管腫、毛細血管拡張症などに照射し、有効であった。ウルトラパルス炭酸ガスレーザーは脂漏性角化症、汗管腫、眼瞼黄色腫などに対し高い治療効果が得られた。

IX. スキンケア外来

乾癬、白斑、皮膚T細胞性リンパ腫、痒疹等に対して全身照射型のNarrow-band UVB, 308nm excimer lampを併用して治療を行い、高い治療効果を得ている。

また、専門美容技術指導員が個人指導する「スキンケアレッスン」、「アクネケア」により、治療上の様々な問題点を見出し、改善することによって治療の助けになっている。

「点検・評価」

乾癬外来では各治療法のRisk/Benefit Ratioを考慮し、患者のQOLを高める治療計画確立、治療アドヒアランスの向上を目指している。また、全身照射型のNarrow-band UVB, 308nm excimer lampを積極的に稼働させている。また、東京の患者友の会と共同して乾癬患者を対象にした学習懇談会、市民公開講座を定期的に行う予定である。また、生物学的製剤の使用、臨床試験も積極的に取り組んでいる。また、乾癬の合併症として注目を浴びているメタボリック症候群の検索ならびに治療も積極的に行っている。

神経線維腫症に関しては当科における専門外来の存在が広く知られているためか、これまで以上に多くの患者が紹介受診し、遺伝相談も積極的に行っている。臨床・基礎研究ではMPNSTについての早期診断に加え、遺伝子異常の検索を続けている。また、患者QOL向上を目指して積極的に神経線維腫の手術にも取り組んでいる。

ヘルペスウイルスの基礎研究では高感度の迅速診断法の有用性を証明しえた。ヘルペスウイルス感染症の早期診断、型分類も行っている。また、性器ヘルペスの抑制療法、PHNの治療に関しても積極的に取り組んでいる。

ヒト乳頭腫ウイルス感染症は紹介難治例も多く、通常の治療法に加え、特殊療法も重症度に応じて、行っている。尖圭コンジローマの治療も積極的に行っている。

パッチテスト専門外来では食物によるアナフィラキシーの原因追及、接触皮膚炎、薬疹などの原因物

質の同定を行っている。

アトピー性皮膚炎の臨床面ではEBMに基づく治療のみならず、患者のQOLの障害の程度を考慮した日常診療を行っている。中でもスキンケアの重要性を患者に自覚してもらうため、スキンケア外来でのスキンケアレッスンの普及に努めている。心身医学的配慮が必要な患者にはメンタルケア外来を設けて対応している。本学独自の患者の会を中心に息の長い活動も行っている。

皮膚悪性腫瘍は、手術症例も多く、悪性黒色腫、乳房外Paget病について国内でも屈指の経験例を有する。センチネルリンパ節生検も積極的に行っている。悪性黒色腫のフェロン維持療法の研究組織は当科が中心となって行っている。

レーザー治療外来では、数種類のレーザー機器を用いて多数の症例を治療している。蓄積されたデータをもとに適切な時期に適切な機器で治療を行えるようになっている。

膠原病は長期経過の中で様々な合併症を生じる疾患群であるため、今後も他科との連携を保ちつつ、継続して治療を行うことが重要であると考えている。

全体として、様々な難治性皮膚疾患に関する広範な臨床研究に加え、臨床に還元できる基礎的研究が進行していることが特徴である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Kiso M, Yabe S, Itoh M, Nakagawa H, Okochi H. Introduction of the TERT and BMI1 genes into murine dermal papilla cells ameliorates hair inductive activity. *J Dermatol Sci* 2018; 90(2) : 218-21. Epub 2018 Feb 21.
- 2) Kikuchi S, Umezawa Y, Chihara M, Asahina A, Nakagawa H. Case of psoriatic patient who maintains long-term remission after anti-hepatitis C virus agents and ustekinumab treatment. *J Dermatol* 2018; 45(3) : e59-60.
- 3) Suzuki H, Nobeyama Y, Sekiyama H, Kazama M, Tajima-Kondo S, Nakagawa H. Case of deep dissecting hematoma resulting in sepsis due to *Pseudomonas aeruginosa* infection. *J Dermatol* 2018; 45(3) : e65-6.
- 4) Yamada-Hishida H, Nobeyama Y, Nakagawa H. Correlation of telomere length to malignancy potential in non-melanoma skin cancers. *Oncol Lett* 2018; 5(1) : 393-9.
- 5) Chujo S, Asahina A, Itoh Y, Kobayashi K, Sueki H, Ishiji T, Umezawa Y, Nakagawa H. New onset of psoriasis during nivolumab treatment for lung cancer. *J Dermatol* 2018; 45(3) : e55-6.
- 6) Hayakawa-Asai R, Nobeyama Y, Maki T, Asahina A, Nakagawa H. Case of papuloerythroderma of Ofuji-like eruption during the course of bullous pemphigoid. *J Dermatol* 2018; 45(3) : e63-4.
- 7) Momose M, Asahina A, Umezawa Y, Nakagawa H. Long-term clinical efficacy and safety of secukinumab for Japanese patients with psoriasis: a single-center experience. *J Dermatol* 2018; 45(3) : 318-21.
- 8) Aizawa N, Asahina A, Ishii N, Hashimoto T, Nakagawa H. The nose as a predilection site of pemphigus. *Clin Exp Dermatol* 2018; 43(1) : 71-2.
- 9) Tajima-Kondo S, Nobeyama Y, Nakagawa H. Case of lymph node primary perivascular epithelioid cell tumor associated with leukoderma. *J Dermatol* 2017; 44(12) : e348-9.
- 10) Sekiyama H, Nobeyama Y, Nakagawa H. Successful treatment by negative-pressure wound therapy for ulcer located on diffuse plexiform neurofibroma. *J Dermatol* 2017; 44(12) : e313-4.
- 11) Kikuchi S, Yanaba K, Nobeyama Y, Yabe S, Kiso M, Saeki H, Tada Y, Nakagawa H, Okochi H. Suppressive effects of mesenchymal stem cells in adipose tissue on allergic contact dermatitis. *Ann Dermatol* 2017; 29(4) : 391-9.
- 12) Nobeyama Y, Nakagawa H. Silencing of metallothionein 1A gene in melanoma. *J Dermatol Sci* 2017; 88(2) : 232-7.
- 13) Asahina A, Umezawa Y, Momose M, Honda H, Yanaba K, Nakagawa H. New onset or transition of disease state of psoriatic arthritis during treatment with ustekinumab: A single-center retrospective study. *J Dermatol* 2017; 44(12) : 1380-4.
- 14) Asahina A, Fukuda T, Ishiueji Y, Yaginuma A, Yanaba K, Umezawa Y, Nakagawa H. Usefulness of dual-energy computed tomography for the evaluation of early-stage psoriatic arthritis only accompanied by nail psoriasis. *J Dermatol* 2017; 44(12) : e326-7.
- 15) Kawase M, Egawa K, Ishiji T, Nakagawa H. Human papillomavirus type 6/11 identified in an epidermoid cyst of the scrotum. *J Dermatol* 2018; 45(2) : 224-7.
- 16) Ito T, Takahashi H, Kawada A, Iizuka H, Nakagawa H; Japanese Society For Psoriasis Research. Epidemiological survey from 2009 to 2012 of psoriatic patients in Japanese Society for Psoriasis Research. *J Dermatol* 2018; 45(3) : 293-301.

- 17) Asahina A, Nakagawa H. Comment on "Efficacy and safety of etanercept and adalimumab with and without a loading dose for psoriasis: a systematic review". *J Am Acad Dermatol* 2017; 77(6): e167-8.
- 18) Kitoh Y, Asahina A, Sato J, Ishii N, Hashimoto T, Nakagawa H. Case of linear immunoglobulin A/immunoglobulin G bullous dermatosis showing immunoglobulin G reactivity with the 120-kDa LAD-1. *J Dermatol* 2017; 44(9): e222-3.
- 19) Nakagawa H, Nemoto O, Igarashi A, Nagata T. Efficacy and safety of topical JTE-052, a Janus kinase inhibitor, in Japanese adult patients with moderate-to-severe atopic dermatitis: a phase II, multicentre, randomized, vehicle-controlled clinical study. *Br J Dermatol* 2018; 178(2): 424-32.
- 20) Matsuo H, Asahina A, Fukuda T, Umezawa Y, Nakagawa H. Relapsing polychondritis associated with psoriasis vulgaris successfully treated with adalimumab: A case report with published work review. *J Dermatol* 2017; 44(7): 826-9.
- 21) Hayashi M, Yanaba K, Umezawa Y, Asahina A, Nakagawa H. Impact of anti-tumor necrosis factor- α agents on serum levels of KL-6 and surfactant protein-D in patients with psoriasis. *J Dermatol* 2017; 44(9): 1063-6.
- 22) Momose M, Asahina A, Hayashi M, Yanaba K, Umezawa Y, Nakagawa H. Biologic treatments for elderly patients with psoriasis. *J Dermatol*. 2017; 44(9): 1020-3.
- 23) Honda H, Umezawa Y, Kikuchi S, Yanaba K, Fukuchi O, Ito T, Nobeyama Y, Asahina A, Nakagawa H. Switching of biologics in psoriasis: reasons and results. *J Dermatol* 2017; 44(9): 1015-9.
- 24) Asahina A, Kubo N, Umezawa Y, Honda H, Yanaba K, Nakagawa H. Neutrophil-lymphocyte ratio, platelet-lymphocyte ratio and mean platelet volume in Japanese patients with psoriasis and psoriatic arthritis: Response to therapy with biologics. *J Dermatol* 2017; 44(10): 1112-21.
- 25) Hayashi M, Yanaba K, Umezawa Y, Asahina A, Nakagawa H. Superiority of magnetic resonance imaging over conventional radiography in the early diagnosis of psoriatic arthritis. *J Dermatol* 2017; 44(10): e232-3.
- 26) Nobeyama Y, Watanabe Y, Nakagawa H. Silencing of G0/G1 switch gene 2 in cutaneous squamous cell carcinoma. *PLoS One* 2017; 12(10): e0187047.
- 27) Kohara A, Yanaba K, Muro Y, Ito H, Nakagawa H, Noda K, Kurosaka D. Anti-PM/Scl antibody-positive dermatomyositis in a Japanese patient: a case report and review of the literature. *Int J Rheum Dis* 2017; 20(12): 2186-9.
- 28) Sato R, Itoh M, Suzuki H, Kusuhara Y, Nakayama M, Kikuchi S, Tanito K, Nakagawa H. Pathological findings of lymphadenopathy in drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)/drug reaction with eosinophilia and systemic syndrome (DRESS): similarities with angioimmunoblastic T-cell lymphoma. *Eur J Dermatol* 2017; 27(2): 201-2.
- 29) Ishiiji Y, Umezawa Y, Asahina A, Fukuta H, Aizawa N, Yanaba K, Nakagawa H. Exacerbation of atopic dermatitis symptoms by ustekinumab in psoriatic patients with elevated serum immunoglobulin E levels: report of two cases. *J Dermatol* 2018; 45(6): 732-4. Epub 2018 Mar 22.
- 30) Chiba M, Yanaba K, Kohara A, Nakayama M, Nakagawa H, Fukuda T, Ishii N, Yoshida K. Septic arthritis caused by *Mycobacterium marinum* infection. *J Dermatol* 2017; 44(10): 1179-80.

II. 総 説

- 1) 中川秀己. 【患者さんから学ぶ慈恵の診察室－病気を診ずして病人を診よ】乾癬性関節炎の早期診断・治療を目指して. *Visual Dermatol* 2018; 17(3): 212-3.
- 2) 梅澤慶紀, 中川秀己. 【乾癬－病態－臨床の最新知見－】乾癬の治療 シクロスポリン. *日臨* 2018; 76(1): 101-7.
- 3) 唐川 大, 中川秀己. 【乾癬－病態－臨床の最新知見－】総論 乾癬・乾癬性関節炎の疫学. *日臨* 2018; 76(1): 16-21.
- 4) 梅澤慶紀, 中川秀己. 【アレルギー疾患に対する生物学的製剤】皮膚科 乾癬－乾癬性関節炎に対する生物学的製剤の効果とその位置づけ. *アレルギー免疫* 2017; 24(12): 1598-609.
- 5) 梅澤慶紀, 朝比奈昭彦, 中川秀己. 【疾患別・知っておきたい 皮膚科の検査とその評価法】乾癬 重症度評価法. *皮膚臨床* 2017; 59(6): 837-46.
- 6) 中川秀己. 【TNF 阻害剤の可能性を再考する】乾癬性関節炎の早期診断・治療を目指して. *クリニシアン* 2017; 64(7): 566-77.
- 7) 石地尚興. 【性感染症－今, 何が問題か】急増する梅毒を見逃さないためのポイント. *日医師会誌* 2018; 146(12): 2475-9.
- 8) 築場広一. 【乾癬－病態－臨床の最新知見－】乾癬の治療 メトトレキサート. *日臨* 2018; 76(1): 116-9.
- 9) 石氏陽三. 【痒み十人十色－がんこな痒みの仕組みと対処法】(Part 3) 痒みのメカニズムアップデート (update 4) 「痒みは伝染する」って本当? *Visual*

Dermatol 2017 ; 16(11) : 1104-5.

- 10) 朝比奈昭彦. 【生物学的製剤 update - 臨床のためのポイント解説 -】 アダリムマブ. *Derma*. 2017 ; 263 : 21-7.

Ⅲ. 学会発表

- 1) Ito M. (Afternoon Seminar 5: Accelerating Innovation of Clinical and Research with Immune Repertoire Analysis) Clinical and research application of T cell receptor repertoire analysis. 日本研究皮膚科学会第42回年次学術大会・総会. 高知, 12月.
- 2) Watanabe Y. Tumor-suppressive effects of interferon- β through interleukin-24 in melanoma. 47th Annual European Society for Dermatological Research Meeting (ERDR 2017). Salzburg, Sept.
- 3) Ito M, Kawagoe S, Okano HJ, Nakagawa H. Generation of induced pluripotent stem cells (iPSCs) from NY-ESO-1-specific CD8⁺ T cell isolated from the patient with melanoma. 47th Annual European Society for Dermatological Research Meeting (ERDR 2017). Salzburg, Sept.
- 4) 鈴木 皓, 延山嘉眞, 谷戸克己, 太田有史, 中川秀己. 神経線維腫症1型患者のdiffuse plexiform neurofibroma切除術における術中出血量の検討. 第116回日本皮膚科学会総会. 仙台, 6月.
- 5) 梅澤慶紀, 江藤隆史, 田中 大, 花田孝雄, 西川厚嗣, 板倉仁枝, 中川秀己. 日本人乾癬患者でのイクセキズマブの第3相長期投与試験(Uncover-J)における妊娠例について. 第116回日本皮膚科学会総会. 仙台, 6月.
- 6) 伊藤宗成, 延山嘉眞, 梅澤慶紀, 中川秀己. TNF α 阻害薬(アダリムマブ)投与中に発症したリンパ増殖性疾患の1例. 第33回皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 秋田, 6月.
- 7) 伊藤祐太, 延山嘉眞, 菊池真未, 浅井令奈, 鈴木 皓, 山口貴子, 近藤佐知子, 菊池荘太, 石地尚興, 中川秀己. CD8陽性T細胞の表皮内浸潤がみられた皮膚T細胞リンパ腫の1例. 第33回皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 秋田, 6月.
- 8) 林 玲華, 福地 修, 間中結香, 辻 雄介, 山口貴子, 小林 光, 吉田寿斗志. 若年女性の外陰部に多発したverruciform xanthomaの1例. 第872回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 6月.
- 9) 山口貴子, 近藤佐知子, 菊池荘太, 延山嘉眞, 石地尚興, 中川秀己. 帯状疱疹とカポジ水痘様発疹症を併発した1例. 第872回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 6月.
- 10) 村山 梓, 石地尚興, 中川秀己. 肉眼所見からポーエン様疹症を疑った7例の検討. 第873回日本皮膚科学会合同臨床地方会. 東京, 7月.
- 11) 百瀬まみ, 梅澤慶紀, 朝比奈昭彦, 中川秀己. 当院に置くセクキヌマブの治療成績. 第32回日本乾癬学会学術大会. 東京, 9月.
- 12) 井ノ口早苗, 石氏陽三, 相澤紀江, 梅澤慶紀, 浅井令奈, 築場広一, 江畑俊哉, 朝比奈昭彦, 中川秀己. 乾癬のかゆみ-日本語版5D Itch scaleを用いた評価(第2報)-. 第32回日本乾癬学会学術大会. 東京, 9月.
- 13) 八木沼彩. 朝比奈昭彦, 石氏陽三, 梅澤慶紀, 中川秀己, 福田健志. 早期診断と治療効果判定にDual-energy CTが有用であった爪乾癬のみの乾癬性関節炎の1例. 第32回日本乾癬学会学術大会. 東京, 9月.
- 14) 辻 雄介, 林 玲華, 山口貴子, 小川智広, 小林 光, 福地 修. サウナ内で熱中症により意識消失し全身性熱傷を生じた1例. 第874回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 9月.
- 15) 盛島美弥, 伊藤宗成, 朝比奈昭彦, 石地尚興, 中川秀己, 上出良一. 免疫抑制患者に生じた限局性皮膚クリプトコッカス症の1例. 第874回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 9月.
- 16) 中山未奈子, 築場広一, 千葉美紀, 梅澤慶紀, 中川秀己. 片側性汎発性斑状強皮症の1例. 第68回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 京都, 10月.
- 17) 関山絃子, 大庭雅子, 浅井令奈, 風間真理子, 近藤佐知子, 菊池荘太, 谷戸克己, 延山嘉眞, 中川秀己. びまん性神経線維腫内の血腫による皮膚潰瘍に対し陰圧閉鎖療法が有用であった神経線維腫症1型の2例. 第69回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 熊本, 10月.
- 18) 近藤佐知子. 伊藤宗成, 延山嘉眞, 中川秀己. 右足底の悪性黒色腫術後異時性に生じたinterval node metastasisの1例. 第69回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 熊本, 10月.
- 19) 金谷瑠奈, 築場広一, 千葉美紀, 中川秀己, 古谷和裕, 野田健太郎, 黒坂大太郎. 皮膚筋炎との鑑別を要した成人スティル病の1例. 第81回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京, 11月.
- 20) 間中結香, 菊池荘太, 山口貴子, 近藤佐知子, 本田ひろみ, 小林 光, 延山嘉眞, 中川秀己, 石井則久. 多発性筋炎, SLE, 長期透析患者の両下腿に生じた皮膚Mycobacterium chelonae感染症の1例. 第81回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京, 11月.